

25:18 親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、

25:19 戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の五人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都にいた民衆六十人を、都から連れ去った。

25:20 親衛隊の長ネブザルアダンが彼らをつらえ、リブラにいるバビロンの王のところへ連れて行った。

25:21 バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らをつらえ殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。

25:22 バビロンの王ネブカドネツアルは、彼が残したユダの地の残りの民の上に、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを総督として任命した。

25:23 軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がゲダルヤを総督としたことを聞いて、ミツパにいるゲダルヤのもとに来た。それは、ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナン、ネトファ人タンフメテの子セラヤ、マアカ人の子ヤアザンヤ、彼らとその部下たちであった。

25:24 ゲダルヤは彼らとその部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデア人の家来たちを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。」

25:25 ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、十人の部下とともに来て、ゲダルヤをつらえ殺し、ミツパで彼と一緒にいたユダの人たちと

カルデア人たちをつらえ殺した。

25:26 そこで民はみな、身分の下の者から上の者まで、軍の高官たちとともに、立ってエジプトへ行った。カルデア人を恐れたからである。

25:27 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十七日、バビロンの王エビル・メロダクは、王となったその年のうちにユダの王エホヤキンを牢獄から呼び戻し、

25:28 優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。

25:29 彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。

25:30 彼の生活費はその日々の分を、一生の間、いつも王から支給されていた。

南王国ユダの末路が記されています。北王国イスラエルと同じく、神への反逆によって滅ぼされたのです。当時は国と国が戦い、王たちが殺し合い、滅びに継ぐ滅びが起こる時代でした。主が滅ぼしたというよりも、異教の国々のように他国の侵略によって滅ぼされたのですが、それはイスラエルもユダも異教の国々のものであったからです。すなわち神をないがしろにしてきたからです。

それでも主はエホヤキンによくしてくださり、彼の子孫であったゼルバベルが、神殿の再建をできるようにという希望を残してくださったのです。どんなときにも主のあわれみが残っていることに気づき、主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

